

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第二十五卷「人文科学（二の五）」

心理、精神、身体、生命および倫理、
道德、人間学（五）
衣食住、睡眠・夢と覚醒

編纂、監修

岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第二十五巻を成し、岩崎の言語の著作のうち、衣食住、睡眠・夢と覚醒に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

第一部 摂食障害

第一章 精神医学的定義

第二章 精神医学的定義の概要

第三章 罹患者との個人的交流

第四章 「岩崎式日本語」にまつわる個人的交流

第二部 睡眠障害

第一章 精神医学的定義

第二章 精神医学的定義の概要

第三章 罹患者との個人的交流

第四章 「岩崎式日本語」にまつわる個人的交流

第三編 三十歳～三十九歳

第一部 共感覚者が見る明晰夢「ひのものとしがね」

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作者権者が岩崎純一であるもの

第九編 著作者権者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳～二十九歳

第一部 摂食障害

二〇〇六年一月十七日 起筆

二〇〇六年二月十八日 公開

二〇一七年九月十一日 最終更新

特設サイト「精神病理学・精神疾患研究」

第一章 精神医学的定義

ICD-10 : F50 摂食障害 (Eating disorders)

DSM-IV-TR : 12 摂食障害 (Eating Disorders)

MeSH D001068 : 摂食障害 (Eating Disorders)

第二章 精神医学的定義の概要

摂食障害は、ICD-10、DSM-IV-TR を含む各精神疾患分類において、極めて誤差が小さい。非常に症状が明確な疾患である。ただし、ICD においては「F50-F59 生理的障害及び身体的要因に関連した

行動症候群」の下位分類である。

無食欲症、拒食症、過食症などに分けられ、罹患者の体型は極度の痩せ型と肥満体型とに二極化する傾向にある。そして、ほぼ女性によって占められる疾患である。男女比は、およそ一对五から一对十までの間である。

特に若年女性において自身の指を用いた嘔吐の反復などの随伴行動や、うつ症状、不安症状が見られる。一般に巷で「摂食障害」や「拒食症」という言葉で呼ばれているものは、ほとんどこのような状態を指している。嘔吐と過食を繰り返す場合、境界性人格障害をも疑われる。

むろん、うつ症状や不安症状が大食の女性よりも拒食の女性のように多発するのは、拒食状態すなわち栄養失調状態においては体力や免疫機能自体が損なわれるためであり、月経が停止することもあ

る。逆に、過食の女性では、躁状態や極端ないら立ち、激高などがしばしば見られる。過食と言っても、野菜や魚介類、炭水化物などの過食ではなく、菓子類やファーストフードの偏食としての過食である場合が多い。拒食の場合も多くは偏食であり、菓子類の量が減っていないケースがあるし、嘔吐を伴っている場合は、過食症であることも多い。

原因は心因性である場合が多く、夫やパートナーの男性から容姿に関する否定的発言を受けて、「もっと痩せなければならぬ」と自らに言い聞かせて発症するケースもあるが、しばしばテレビなどで

アイドルやモデルの痩せ型の体型やダイエット前後の写真を見て、これに強い憧れを抱いて発症するケースもある。

摂食障害についての解説は、以下で述べる私の交流相手の摂食障害者の方々が通院・入院されていた赤城高原ホスピタルの【摂食障害の基礎知識】が詳しい。

また、摂食障害は、むろん様々な理由から起きてしまうが、性的被害による女性の発症が極めて多く、【虐待被害者の声】には性的被害により摂食障害となった多くの女性の声が寄せられている。

第三章 罹患者との個人的交流

摂食障害の方々との交流は長いが、私の場合、特に拒食症、極度の痩せ型の女性との交流が多い。そもそも私を含む男性にとっては、なぜ一部の女性はどのように必要以上に痩せようとするのか、その原因を探るところから始める必要がある。

DSM-IV-TRは、原因よりも表に現れた症状自体を操作主義的に扱う疾病分類・診断基準であるため、原因はそれほど重視されないが、あえて原因に注目したく思う。

問題なのは、きちんと栄養バランスのとれた確かな食事をし、パートナーなどに否定的発言を受けていない限り、多少の体重の変動や超過・不足はあっても、自己を否定するに至らないはずであるのに、なぜ「自分はまだ痩せきっていない」と考えるのか、という

点である。

この点を意識して摂食障害者の女性と接してきた結果、結論を出すにはまだ性急すぎるものの、次のような共通の特徴や経験を持つ摂食障害の女性たちがいたことも事実である。

- 同性の姉妹が一人または複数いる。あるいは、いつも決まって一緒に遊んだり喫茶を楽しんだりする同性の友人がいる。
- 母親が摂食障害者女性の姉や妹、または友人のほうを、容姿に限らず、学校の成績や学歴、職歴、性格などにおいても、摂食障害者のそれらと比較して賞賛してきた。（または母親がそのような意識を持って、摂食障害者女性と姉妹、女性と友人を暗に比較してきた。）
- 摂食障害者女性が、自ら気付くか否かに限らず、上記のことを主な理由として、同性の姉妹や友人のことを羨ましいと感じている。あるいは、母親を見返したいと思っている。

逆に、このような特徴や経験を持たない女性の場合、異性や上司から容姿や体型についての暴言やセクハラに遭っているながら、摂食障害に陥らずに耐え抜いたケースに出会ったことがある。

このように考えると、元々「私は女性であって、それでいいんだ」という女性性としての自己承認の芽を摘むような家庭教育や刷り込みを母親や近親者がおこなったところに（摂食障害へのなりやすさの醸成）、赤の他人による明確な言動としての自身の容姿への否定や、実父・上司の男性・近所の男性などからの性的暴行・レイプの被害、

岩崎純一のウェブサイト
女性専用スペース
Women Only

テレビなどにおけるモデル女性の体型やダイエット広告の目撃が重なる（摂食障害の直接の契機）、摂食障害は発症するのではないかと、私は考えている。

▼ 私がご相談を受けて交流してきた、精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚・症状を持つ女性の皆様に、私のサイト内の女性専用スペースの管理・運営をしていただいております。また、これらの女性の皆様が入居者の多くを占める、シェアハウス型の女性寮に協力させていただいております。

女性に特有の症状・知覚については、女性スタッフおよび寮生に解説をお願いしています。

← ● 「精神・身体症状、共感覚、その他の特殊知覚・症状の解説の分担などについて」を参照。

岩崎純一のウェブサイト 女性専用スペース

第四章 「岩崎式日本語」にまつわる個人的交流

摂食障害者は特に言語に障害があるわけではないため、私も常々普通の現代日本語で交流しており、岩崎式日本語の登場する機会はほとんどないと言える。

参考文献（精神疾患研究のトップページに挙げた文献以外）

Forman-Hoffman, Valerie L.; Cunningham, Cassie L. (April 2008).

"Geographical clustering of eating disordered behaviors in U.S. high school students". *International Journal of Eating Disorders* 41 (3): 209-14.

Rothenberg A. *Eating disorder as a modern obsessive-compulsive syndrome*. *Psychiatry* 49:45-53,1986.

『自傷行為の理解と援助―「故意に自分の健康を害する」若者たち』松本俊彦、日本評論社、二〇〇九年八月

第二部 睡眠障害

二〇〇六年一月十七日 起筆
二〇〇六年二月十八日 公開
二〇一七年九月十一日 最終更新
特設サイト「精神病理学・精神疾患研究」

第一章 精神医学的定義

ICD-10 : F51 非器質性睡眠障害 (Nonorganic sleep disorders)
DSM-IV-TR : 13 睡眠障害 (Sleep Disorders)
ICSD (睡眠障害国際分類)
DiseasesDB 26877, eMedicine med/609, MeSH D012893 : 睡眠障害 (Sleep Disorders)

第二章 精神医学的定義の概要

睡眠障害は、DSM-IV-TRでは独立した分類を立てられているが、ICD-10では「F50-F59 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群」の一種で、かつ「非器質性睡眠障害」となっている。従って、DSM-IV-TRでは睡眠障害となる症状が、ICD-10ではそうならない場合もある。

睡眠障害は、軽度なものであれば、健康な人であっても仕事や人間関係に関する悩みなどによって生じることがあるが、精神病、うつ病、不安障害などによって生じる場合には、ほとんど不眠となったり、また逆に、極端な過眠を繰り返し、布団から出る気力もなくなるなど、重症化することが多い。

また、夜驚症、夜尿症、悪夢なども睡眠障害に含まれる。いずれも、幼少期や児童期における軽度のものであれば、病的とは見なされない。発達障害児において、これらがごく普通に見られる。

しかし、解離性障害やPTSDに陥った若い成人女性においてもしばしば夜驚症、夜尿症、悪夢が見られ、この場合は、心因の突き止めなど、神経症性障害の観点からの改善が優先的に試みられる。

第三章 罹患者との個人的交流

私自身が幼少期には周囲の子供と比べて大泣きする子供であったため、今から客観的に考えてみるに、夜驚症かそれに近い状態であったのであろう。

しかし、記憶にある限りの私自身の泣き方と、現在交流のある発達障害児たちの泣き方、虐待被害者の成人女性のそれとを比べてみるに、後者二つのケースのほうが程度が甚だしく持続的であると感ずる。それだけに、何か力になりたいとは常々思っている。

ただし、後者二つのケースでは、夜驚症、夜尿症、悪夢など、症

状としては同様であつても、発達障害児の場合には、発達障害児には普通に見られる生得的な知覚の鋭さや敏感さから来る症状である一方で、虐待を受けた成人女性の場合には、夢に加害者が登場する場合もあるため、対応の仕方は全く異なるざるを得ない。

発達障害児のそのような敏感さ、繊細さは、むしろ特定の遊戯や芸術行為や算数能力などに生かすことのできる能力であつて、「いつかは治る」というような類のものではないし、また誰かが治す必要もない。

しかし、虐待被害者女性のそれは、ご本人が「治したい」、すなわち「自分の過去について、忘れることはできないが、もっと鈍感になりたい」と希望する限りにおいて、医師はどうしても薬を出す必要があるだろうし、このような女性が安心して呼吸し睡眠し生活ができる程度の環境の整備というものは、この女性にとって信頼できる周囲の人間がおこなうしかない、私は考えている。

▼ 私がご相談を受けて交流してきた、精神・身体症状や共感覚、その他の特殊知覚・症状を持つ女性の皆様に、私のサイト内の女性専用スペースの管理・運営をしていただいております。また、これらの女性の皆様が入居者の多くを占める、シェアハウス型の女性寮に協力させていただいております。

女性に特有の症状・知覚については、女性スタッフおよび寮生に解説をお願いします。

← ● 「精神・身体症状、共感覚、その他の特殊知覚・症状の解

説の分担などについて」を参照。

岩崎純一のウェブサイト 女性専用スペース

岩崎純一のウェブサイト
女性専用スペース
Women Only

第四章 「岩崎式日本語」にまつわる個人的交流

夜驚症、夜尿症、悪夢を伴う睡眠障害の女性（上記）の日記などにおいて、岩崎式日本語が使用されている。

参考文献（精神疾患研究のトップページに挙げた文献以外）

Primary Nocturnal Enuresis: Current Concepts by M Cendron,
M.D. (American Family Physician marzo 01, 1999)

『睡眠障害の対応と治療ガイドライン』睡眠障害の診断・治療ガイドライン研究会、内山真、じほう、二〇〇二

第三編 三十歳〜三十九歳

第一部 共感覚者が見る明晰夢「ひのものとしがね」

二〇一五年六月十二日 起筆、攔筆、公開

これは、私が共感覚者であることと関係があるかどうか分からないが（いや、内心では関係があるに決まっていると思っている、または関係があるという自覚が薄々あるが）、私は自分が夜に見る夢に並々ならぬ興味を持って生きている。

そもそも私に限らず、共感覚者の見る夢は全般的にどうも風変わりなようである。おそらく、私の場合も、レム睡眠時の脳波を計測すれば、標準平均的なレム睡眠時の脳波において見られる特徴とは異なる特徴が見られるのだと思う。

私の夢の特徴

●色が付いていない夢を見たことがない。

（色が付いていなかったり、色が付いているか否かを即答できない人がいることが今でも信じられない。周りの知人や同僚からは、そのことのほうが信じられない、という答えが返ってくる。ただし、私が最も好きな色は黒や灰や白を基調とする渋い色で、水墨画、和服、日本茶、新聞などの色合いを好む。）

●夢の中でも視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、体性感覚、平衡感覚その他全ての感覚が高い現実性をもって体感される。

●起床後も夢を忘れたことがほとんどない。忘れ方は、覚醒時の普通の物忘れの仕方とほぼ同じ。

（起きた瞬間に直前まで見ていた夢を忘れるか、少なくともその日の夕方頃までには思い出せなくなるという人があまりに多くて、驚いている。しかし、生物として異常に高度に発達した人間＝ホモ・サピエンスの脳が、覚醒の瞬間に直前まで見ていた夢を忘れるようにできているというのは本当で、そちらのほうが普通らしい。）

●夢を夢と分かって、メタ視点から夢をコントロールできる機会が頻繁にある。（明晰夢）

●ストーリー展開は無茶苦茶であると言ってよく、少年的・夢想的であるにもかかわらず、共時的に切り取ったときの内容は、極めて学問的・高次認知的であり、時に時事的でさえある。

例えば、最近見た夢は以下のようなものです。

【夢始まり】

空飛ぶ絨毯（またはビニール？）に乗って低空飛行しながら味噌ラーメンを食べていると、突然、ブツダ？かその他の如来（大日如来？）らしき仏か魔王？が登場して、

「ひのもととしがねを何とかせよ！」

と叱られた。世の中にはおかしな仏もいるものだと思って、なぜか目の前に現れたハンドルを切って逃げようとしたら、また同じことを言われた。

そこでなぜか、「小さい頃に行き忘れた宝島にあった宝物かな」とどと考え込んだ。（どこの何かは分からない。）

しばらく考えて、「ひのもととしがね」が「日本年金」であることに気づき、つまりは「日本年金機構の体質を何とかしろ」と言っていることに気づき、内心で「いや、俺のせいじゃないよ、勘弁してくれよ」と思いながら、口先だけで「分かりました。機会があれば、お伝えしておきます」と回答。

ブツダらしき仏が「まったく、日本はおしまいだ」と言うので、仕方なく黙ってラーメンの続きを食べていたら、仏は去っていった。

この間ずっと、これら一連の出来事が夢の中の出来事であることに薄々気づいていた。

最後に、絨毯の端にある「お目覚めボタン」を押して目が覚めた。

【夢終わり】

さて、不思議なのは、「ひのもととしがね」などという文言は、その明晰夢を見た日までの覚醒時のどこかですでに思いついていたものではなく、あくまでもその夢を見ている最中の私の脳が生み出したものだという点である。もちろん、漢字の複数の読み方と、「ひのもとのに」という日本国の古称と、最近の年金関連問題の全てを知っている日本人の脳にしか生じ得ない夢である。（これを認めないようでは、当然ただのオカルト科学である。）

ところが、私の脳が生み出したものなら、すぐに「日本年金機構をもじったものだな」と気づけばよいものを、夢の中の自分はそれに気づくのに時間がかかっているところが、我ながら笑える点であり、面白いのである。

こういう例を待つまでもなく、そもそも「人間が自由意志を自覚した（行動を思い立った、何かに気づいたと自覚した）瞬間の時刻は、自由意志（企図、想起）の開始を示す脳電位の発生時刻よりも後である」ことは、ベンジャミン・リベットの実験をはじめとして、いくらでも検証されているし、我々がそれを覚醒時に体験できるギリギリの類似の例が「条件反射」であるわけだが、とりわけ夢においては、多かれ少なかれ、誰にでも生じる摩訶不思議現象ではないかと思っている。

（ちなみに、いわゆる「脊髄反射」は脳が関係しないので、これとは異なる。これに対し、共感覚や条件反射（条件反応）は脳が関係

して生じる。）

芸術家が、次の作品に行き詰まっていたところ、夢の中で新しい作品の構想を（まるで第三者の助けを得たかのように）思いつくというのは、よく聞く話である。

それにしても、謎の「宝島」への憧れが登場する一方で、「まったく、日本はおしまいだ」という文言（夢の中の他者の文言）もどう見ても私の考えから来ているし、ともかく、少年的夢想と社会的危機意識とが混濁した内容を持っている点が、私の夢の特徴だろうと分析している。

というより、このような分析も夢の中でしていることがあるので、おそらく私は、自分が感覚・知覚したものについての思索・思惟、あるいは潜思・沈潜という行為が根本的に好きなのだろうと自分で思う。